

コロナ禍におけるリハビリテーション総合実施計画書説明の在り方 ～面会制限下における説明・同意手きの再考～

鳴門山上病院 森 拓也（作業療法士）

- リハ総合実施計画書説明は重要なプロセスであるが、コロナ禍で面会制限があり十分行えず問題となった。解決のためにタブレットを用い視覚的情報を交えて説明し家族の満足度を調査した報告である。結果 IC の内容充実を図るとともに共有意思決定に向けた取り組みの重要性を示唆している。
- 新型コロナ感染症により、入院患者の面会制限が大きな課題となった。各施設で工夫しているが、タブレットを用いた面談の有用性は知られている。特に、リハビリ部門では、患者の動作リハ介入による効果は視聴覚的に捉える必要が高い。この度の報告は、入院患者の総合実施計画表作成に当たり、患者家族に患者の動作を説明する手段と撮影画像を使用した経験である。入浴、排泄の撮影が問題である事、双方向性の手段を探るなど現場での課題が紹介されている。今後も共有意思決定に向けた取り組みを進めて欲しい。
- コロナ禍において動画・静止画を利用してリハビリテーション総合実施計画書の説明することで、アンケート結果からも対面に近い満足度が得られていることは素晴らしいと思う。
- このコロナ禍でどこの施設でもなかなか面会が実現しなかったと思います。その中で患者さんご家族が face to face で会う力は改めて感じました。患者さんにはモチベーションとなり、ご家族には安心をもたらします。家族は今病院でどうしているのか、どこまでよくなったかと日々不安です。計画書は医療者でないものにとっては専門用語も含まれ、なかなかわかりにくいものです。そこを、画像を用いてわかりやすく伝える今回の取り組みは患者さんやご家族の目線に立った良い取り組みですね。
- 発表お疲れさまでした。当院でも動画でリハビリ状況を説明したりコロナ禍の、患者家族に説明しにくい案件は動画で説明しております。家族が会えない中、患者と家族をつなぐツールの取り組みは最重要と判断しております。今後は自宅で退院を待っている家族に遠隔で説明する時代が来るかもしれません。